



第16回若手医師のための家庭医療学冬期セミナー

「今そこにある健康格差に対して、私たちは目をつぶっていないだろうか？」

私たち家庭医・総合診療医は日々、様々な生活背景をもつ患者を診察しています。その人の健康には社会的な要因が大きく関わっているとされ、これを「健康の社会的決定要因」といいます。そして私達が診療の中で患者の生活背景に触れる時、そこに何らかの格差を感じることがあります。それはきっと「健康格差」です。そう、今そこに健康格差は確かにあります。

しかしこの健康格差を目の前にしたとき、あなたは目をつぶっていないでしょうか。わかっていても「私たちにはどうしようもできない」と感じることも多いのではないでしょうか。そして現在、世界中で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症は、その健康格差をさらに拡大させていく。本当に私たちにできることは何も無いのでしょうか。

そのヒントを得るために、今回の全体講演では社会問題としての格差に切り込むトップランナーの方々をお呼びいたしました。

様々な社会問題を構造化して視覚化しつつ、イノベーティブな活動を通してその問題解決に取り組まれている株式会社リディラバ代表の**安部敏樹先生**。

ご自身の幼少期の体験も踏まえながら、日本の貧困問題を広く発信されているフリージャーナリストの**吉川ばんび先生**。

そして、緩和ケア医としてご活躍されながら、地域での人のつながりに注目した暮らしの保健室や社会的処方研究所などの活動をされていらっしゃる**西智弘先生**。

コロナ禍の今だからこそ、更に拡大する健康格差について改めて考え、新たな一步を踏み出すことができる 2 時間半となることでしょう